

東邦大学医療センター佐倉病院産婦人科専攻研修プログラム

佐倉・必修科目

麻酔科（2ヶ月）

選択必修について

研修医は医師法16条の2第1項の規程に基づく臨床研修制度において、選択必修研修5科目（外科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科）から必ず選択して研修しなければならない。東邦大学医療センター佐倉病院の研修医は麻酔科が指定研修となるので履修が必須である。

1 目的と特徴G I O

プライマリ・ケアおよび医師として最も基本的である気道確保、気道管理を理想的な場である手術室の中で繰り返し実践し、修得するのが第一目標である。また手術、麻酔の侵襲から患者を守るために患者の状態を適切に把握し術前評価を行い、術中は麻酔を通して全身管理を学び、全身管理に必要な種々の薬剤の使い方（静注等が主）を実践から学ぶ。術中・術後の疼痛管理から、緩和ケアの基本を修得する。

2 プログラム管理運営体制

東邦大学医療センター佐倉病院麻酔科のスタッフ会議にて、本プログラムの管理、運営を検討する。プログラム内容や運営に問題が生じたときは合議の上で修正や変更を行ない、必要に応じて指導医を対象とした会を開催して情報の伝達やアドバイスをこなう。

3 教育課程

3-1 研修期間と研修医配置予定

研修期間は必須は2ヶ月である。

東邦大学医療センター佐倉病院麻酔科に配置される。指導医の下で麻酔を受ける患者を担当する。

3-2 到達目標

3-2-1 行動目標 SBO

- 1) プライマリ・ケアの基本である気道確保および気道管理を繰り返し行い修得する。
- 2) 麻酔を受ける患者への適切な問診及び身体診察を行い、術前評価ができるようにする。
- 3) 麻酔中に呼吸・循環管理の基本を修得する。
- 4) 術中・術後の疼痛管理を行い、緩和ケアの基本を修得する。

3-2-2 経験目標SBO+LS

3-2-2-A 経験すべき診察法・検査・手技

- 1) 術前のリスク判定ができる。
- 2) vital sign を正確に判定できる。
- 3) 静脈路が確保できる。
- 4) 気道確保ならびにマスクによる用手人工呼吸ができる。
- 5) 気管内挿管ができ、人工呼吸器の設定ができる。
- 6) 適切な覚醒、抜管、退室の時期の判定ができる。
- 7) 麻酔薬が使用できる。
- 8) 血管作動薬を使用できる。
- 9) 鎮痛・鎮静薬を適切に使用できる。
- 10) 薬を適切に使用できる。
- 11) 電図の解読ができる。
- 12) 動脈血ガス分析ができる。
- 13) 術後鎮痛の指示ができる。

3-2-2-B 経験すべき症状、病態、疾患

- 1) 呼吸抑制
- 2) 呼吸停止
- 3) 血圧低下
- 4) 不整脈
- 5) 大量出血
- 6) 高血圧症
- 7) 疼痛

3-2-3 評価基準

上記研修内容が修得されたかを基準として評価する。プログラム修了時に指導医を対象とした評価表を使用する。

3-3 勤務時間

研修期間中の勤務時間、休暇、当直に関しては東邦大学医学部佐倉病院の規定に従うが、勤務時間は原則的に午前9時から午後5時である。しかし抄読会、症例検討、勉強会などは勤務時間外にも行なわれ、また手術や担当患者の状態によってはこの限りではない。上級医とともに麻酔科当直にあたり、緊急手術の麻酔を学ぶ。

3-4 教育行事

術前回診：毎日、担当医として症例の報告を上級医師に行う。

症例検討：毎日、担当症例について上級医師と検討し、麻酔計画を立てる。

抄読会：月に1回、上級医師による海外研究論文の要約発表のあと、研修医も与えられたテーマにつ

いての文献を読みこなし、要領良くまとめて発表する。

講義：各テーマについて、指導医師が研修医に講義をおこなう。

3-5 指導体制

本プログラムの最終的な指導責任は基幹病院である東邦大学医療センター佐倉病院麻酔科の指導責任者にある。

4 研修医個別評価

プログラム修了時に指導医の評価表を参考に、研修内容を修得されたかを総合的に判断する。

参加施設

本プログラムにおいては、東邦大学医療センター佐倉病院にて研修を行なう。下記施設で研修を行なう場合には十分な連携を図り研修を行う。東邦大学医療センター大森病院並びに同大橋病院の研修内容については東邦大学医療センター佐倉病院での研修に準じる。

[参加施設]

- ① 東邦大学医療センター大森病院
- ② 東邦大学医療センター大橋病院